

種の章



芽出
— 山麓から —



山の日制定経過と大会準備

■「山の日」制定まで

国土の7割を山や森林が占める日本において、「山の日」を作ろうという動きは、古くは、昭和36年7月に富山県で開催された安全登山と資源愛護を目的とした「夏の立山大集会」の様子を伝えた読売新聞の記事から確認できます。全国の山岳人が一同に会した山の祭典の閉会式の際、「“山の日”を制定しよう」という提唱があり、会場からは同感の声とアラシのような拍手が起り、満場一致で「山の日」制定の提案をすることを決議したと伝えています。

一方、山の日と対をなす国民の祝日としての「海の日」は、昭和30年代から海関係団体を中心となり、祝日化に向けた運動がはじまったとされています。平成3年には「海の日制定推進国民会議」が発足、1,000万人の署名と2,281の地方自治体の議会での賛成議決を獲得し、平成7年に法律改正、平成8年から施行されています。海の日制定の動きの中で、長野県は平成5年の県議会で「海の日・山の日の制定に関する意見書」を議決しています。

また、平成3年に、日本山岳ガイド協会の前進である日本アルパインガイド協会が、「登山の日」を10月3日と定め、東京都内で登山奨励の大掛かりな集会を開いたという記録もあります。10月3日は語呂合わせで「登山」。初回は注目されましたが、国民に定着する動きにはならなかったようです。

その後、全国的な「山の日」制定議論が深まらない中、都道府県独自の「山の日」は、平成6年に和歌山県が「紀州・山の日」を、平成9年に山梨県が「やまなし山の日」を制定するなど、全国10を超える自治体での取組みがなされてきました。

平成14年は、国連が定めた「国際山岳年」となり、日本各地で山に関するシンポジウムや会議が開催される中、7月に静岡県富士宮市で行われた「富士山からメッセージ」において、山を見つめ直す機会として、「山の日」をつくることを提案した「富士山からのメッセージ」が採択されています。

今日の国民の祝日「山の日」制定に直接的につながる運動は、平成22年4月の山岳5団体^{*}による、「『山の日』制定協議会」の発足から、本格的な取組みが始まりました。

同会が主催した平成24年10月の「『山の日』ネットワーク東京会議」では、協議会所属の山岳5団体の関係者の他、自治体、省庁、環境保全団体、野外活動グループ、山小屋の代表者らが広く参集し、《国民の祝日としての「山の日」》を念頭に置きながら、各地で展開されている「山の日の取組み」が報告され、「山の自然環境保全」「次世代につなぐ山」について、話し合いが行われています。

そして、平成25年4月10日、「山の日」を制定し、国民の祝日にすることを目指す、超党派の国会議員による「『山の日』制定議員連盟」（衛藤征士郎会長）が発足、山の日制定機運の醸成を図るとともに、具体的な法整備に向けての研究等がはじまりました。

また、議員連盟の動きと並行して、国民運動としての「山の日」制定の推進には、山岳5団体による「山の日」制定協議会に代わるスケールアップした組織が囑望され、超党派議員連盟の代表、地方自治体の首長有志、経済界の賛同者、学者、有識者、山岳5団体の代表者が呼び掛け人になって、平成25年11月に「全国『山の日』制定協議会」（谷垣禎一会長）が設立されました。

全国「山の日」制定協議会は、広く国民の理解を得るための各種事業、特に周知のための集会や、イベントの開催に力を注ぐとし、3年半にわたって活動を続けてきた山岳5団体による「山の日」制定協議会は、全国協議会の設立と同時に発展的に解消し、それぞれが全国協議会の一員として、役割を担っていくことになりました。その後、制定協議会は、「山の日」法案成立を受けた平成26年5月の総会で、会の名前から「制定」を外し、「全国『山の日』協議会」となりました。山の日の意義を広く国民に伝え、「山の日」にかかる広範な分野の発展に寄与することを主な目的として、活動を継続しています。



上高地明神池を訪れた、当時の皇太子ご一家（昭和42年）



「山の日」ネットワーク東京会議での松本市副市長の事例報告（平成24年10月3日）



全国「山の日」制定協議会設立総会（平成25年11月11日）

^{*}公益社団法人 日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、公益社団法人 日本山岳会、公益社団法人 日本山岳ガイド協会、NPO法人 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト

（参考資料：「山の日」ネットワーク東京会議資料、同報告書（公社）日本山岳会 山岳 2016年Vol.111）

■8月11日「山の日」へ

超党派「山の日」制定議員連盟は、発足後、精力的に会合を重ね平成25年9月には、上高地での研修合宿も行いました。

具体的に「山の日」をいつとするかについては、全国「山の日」制定協議会が当初から提唱していた6月第1日曜日、海の日と同日とするなど、いくつかの案が挙がっていました。しかし、先の上高地合宿での山岳関係者との懇談会の際、「6月ではまだ、(北アルプスなどは)雪がある」「子供の夏休みに合わせて」7月下旬から8月上旬が最適との声もありました。

その後、検討を重ねた超党派「山の日」制定議員連盟は、平成25年10月、国会内で総会を開き、8月12日を山の日とする祝日法改正案を、翌年の通常国会に提出することで一旦合意しましたが、この日は御巢鷹山航空機事故が起きた日と重なり、異論が出たため、改めて、同年11月22日の総会で、8月11日とすることを決定しました。お盆前の時期に当たるため、休日にしても社会的影響が少なく、子供が夏休み中で、家族で山に行きやすいといった理由から、この時期での調整となりました。「8月11日」を国民の祝日・「山の日」とする祝日法改正案は、議員立法として平成26年3月に国会に提出され、同年5月23日に参議院で可決され、成立しました。施行は平成28年1月1日。制定の趣旨を「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とした、16番目の国民の祝日の誕生です。

※小坂憲次様(前参議院議員)は、平成28年10月21日に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



超党派「山の日」制定議員連盟の上高地研修合宿※
(平成25年9月9日～10日)



参議院本会議での「山の日」祝日法案可決の瞬間
(平成26年5月23日)



「山の日」制定記念行事・北アルプス西穂高岳
での制定アピール(平成26年8月11日)

■第1回記念大会の開催地決定

長野県は、県土の8割を森林が占め、全国の3,000m峰のうち23座を有し、広大な県土に3つのアルプスがそびえ立つ、正に日本の屋根とも言える、山の信州＝「山岳県」です。

県は、平成25年に、関東地方知事会及び中部圏知事会議で「山の日」制定を提案、国に要請を行うとともに、平成26年には県独自の「信州 山の日」(7月第4日曜日)を制定し、山に関する多岐にわたる施策の取組みを進め、全国的な「山の日」制定機運の醸成をリードしてきました。

また、松本市は、槍ヶ岳や穂高連峰、乗鞍岳など9座の3,000m峰を有し、稜線に開けた台上を持つ美ヶ原に代表される深田久弥の日本百名山が6座あるなど、一年を通じて多くの登山者が訪れる、まさに日本を代表する山岳都市＝「岳(がく)都(と)」です。

市は、山岳観光振興のための専門部署、「山岳観光課」を全国に先駆けて平成23年に設置、同年11月には、山の楽しみや恩恵を周知するとともに、山の日制定の機運醸成を図ることを目的に「岳都・松本『山岳フォーラム』」を開催、あわせて、登山道整備や山岳診療所の充実といった施策にも、積極的に取り組んできました。

平成17年の市村合併により、旧安曇村から松本市となった上高地は、標高3,000mの槍・穂高連峰、霞沢岳、焼岳など峻険な山々に囲まれ、中央を流れる標高約1,500mの梓川に沿って緩やかに開けた盆地状の溪谷で、明治期にウォルター・ウェストンにより世界に紹介され、近代登山のメッカとしてアルピニストたちの聖地といわれています。

山の日制定を受け、平成27年3月に開催された、超党派「山の日」議員連盟と全国「山の日」協議会の合同会議では、第1回「山の日」を記念する全国大会の開催地について、長野県松本市上高地がふさわしいとした見解が示され、記念大会の開催支援を求める要望書を内閣官房長官へ提出しました。同年5月には、長野県、松本市及び上高地町会が連名で、超党派「山の日」議員連盟及び全国「山の日」協議会へ、上高地での記念全国大会の開催についての要望書を提出し、同月22日の全国「山の日」協議会通常総会で、上高地を第1回記念全国大会の開催地とすることが承認されました。



初回の岳都・松本「山岳フォーラム」
(平成23年11月20日)

■山の日記念大会推進室の設置

第1回記念全国大会の開催を、長野県松本市上高地で行うこと
の決定を受け、開催地の地元松本市では、長野県と協力し、大会の
準備と実行のための事務局を担う「山の日記念大会推進室」を、平
成27年10月に、商工観光部の組織として設置しました。室長は部
長職とし、事務所は大会開催地の上高地に近い、松本市安曇支所
内に置き、職員は長野県から派遣を受けた4名と市職員4名による
8名体制でスタートしました。その後、大会の準備が進むにつれての
業務量の増加等に伴い、民間派遣及び長野県からの短期派遣等
を加え、大会開催時は15名体制となりました。



松本市安曇支所

<山の日記念大会推進室(第1回「山の日」記念全国大会実行委員会事務局)の人員等>

日付	配置人数	在職人数	備考
27.10.1	8	8	長野県派遣4 松本市4
28.3.1	1	9	(株)長野銀行派遣1
28.4.1	1	10	
28.6.13	3	13	長野県短期派遣3
28.7.1	1	14	松本市短期併任1
28.7.8	1	15	
28.8.12	△4	11	長野県短期派遣△3 松本市短期併任△1
28.8.31	△1	10	
28.9.30	△3	7	長野県派遣△1 松本市△1 (株)長野銀行△1

■参加者区分

皇太子同妃両殿下、愛子内親王殿下	
特定招待者	山に関係の深い各国 長野県・松本市海外姉妹都市 国務大臣、国会議員
特別招待者	国会議員(山の日議連関係者、長野県選出等) 松本市姉妹(友好)都市の代表者 地方6団体の代表者
一般招待者	国機関 県・市の観光大使 次期開催地の代表者 協賛企業の代表者 実行委員会構成機関が推薦する者
	県議会議員 市議会議員 県内市町村長 協賛企業の関係者 地元(地域)関係者 等
一般公募招待者	
主催等	実施本部員(主催者等) 運営要員、協力企業・団体、ボランティア等

■山に関わりの深い世界各国のご招待

今大会の理念の一つに“世界で初めて「山」を対象とした祝日であることを国内外へ発信するとともに「山」に関する国内外の幅広いネットワークを構築する機会とすること”を掲げています。長野県と松本市では、山を擁する都市をはじめとした世界中の地域などと友好提携・姉妹提携を結んでいます。また、今から15年前の2001年には松本市で「世界岳都都市会議」を開催しています。今大会では、これまでに培われたつながりに加え、登山、林業など山とかわりの深い国々をご招待いたしました。

国・地域名	概要
オーストラリア	最高峰:コジオスコ(2,228m)
オーストリア	長野県:オーストリア農林環境水資源管理省と技術提携の覚書 インスブルックが世界岳都都市会議に参加
中華人民共和国	最高峰:エベレスト(8,848m) 長野県:河北省と友好提携 松本市:廊坊市と姉妹都市 ラサが世界岳都都市会議に参加
ドイツ連邦共和国	最高峰:バイエルン州ツークシェビツェ(2,962m)
イタリア	最高峰:モンブラン(4,810.9m)
ネパール国	最高峰:エベレスト(8,848m) 松本市:カトマンズと姉妹都市。世界岳都都市会議に参加
スイス	松本市:グリンデルワルトと姉妹都市
英国	W・ガウランドが「日本アルプス」を命名 W・ウェストンが日本アルプス等を世界に紹介
米国	最高峰:デナリ(6,194m) 長野県:ミズーリ州と姉妹提携 松本市:ソルトレイクシティと姉妹都市 ソルトレイクシティ、デンバーが世界岳都都市会議に参加
グリンデルワルト	松本市:姉妹都市。世界岳都都市会議に参加

■行事概要等

日時	場所	行事概要	
8月10日	10:00～	松本城公園	信州四方山祭り・オープニングセレモニー
	12:30～ 14:00	あがたの森文化会館	「山の日」制定記念国際フォーラム
	15:30～	ホテルブエナビスタ	歓迎レセプション
8月11日	9:00～	上高地バスターミナル	記念式典～山に親しむ機会の創出と発信～
	10:45		
	14:30～ 16:30	まつもと市民芸術館	祝祭式典～山の日誕生の祝祭と恩恵への感謝～
大会期間中	松本市街地及び上高地	信州四方山祭り(音楽・講演・展示等)	

■大会マップ

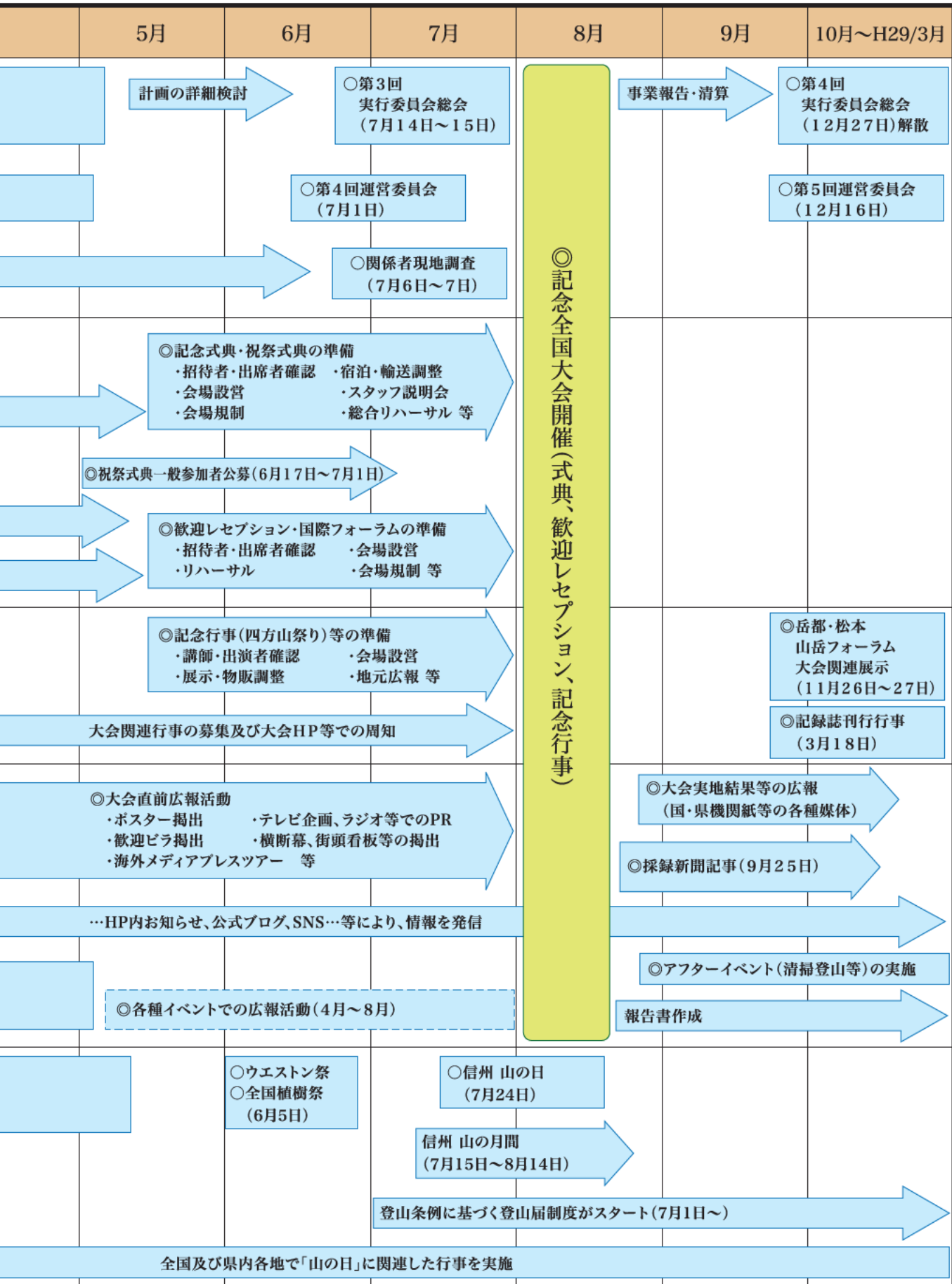


■荒天時等プログラム

- 1 記念式典当日の天候等により上高地への行啓が困難な場合
8月11日午前6時に天候等の判断を行い、まつもと市民芸術館で開催する祝祭式典に切り替える。
- 2 中長期的な天候等の状況によって上高地での記念式典開催が困難な場合
大会5日前における天候等の状況を勘案し、8月5日正午に会長が判断し、事務局から関係機関への伝達及び専用ホームページでの情報発信を行う。また、翌日以降についても、毎日正午に開催判断情報を専用ホームページで情報発信する。
[荒天時等の考え方(例)]
台風の本県上陸の可能性、火山(焼岳)活動、豪雨災害等による国道158号の通行状態、その他式典行事等への参加者の安全確保への影響

第1回「山の日」記念全国大会 開催スケジュール

	H27/5月～9月	10月～12月	H28/1月	2月	3月	4月
実行委員会	<p>H27.5.15 県・市・上高地町会要望書提出</p> <p>H27.5.22 全国「山の日」協議会総会で開催地決定</p>	<p>基本計画の検討</p>	<p>○設立総会 第1回 実行委員会総会 (1月8日)</p> <p>○第1回運営委員会 (1月29日)</p>	<p>実施計画の検討</p> <p>○第2回運営委員会 (2月29日)</p>		<p>○第2回 実行委員会総会 (4月28日)</p> <p>○第3回運営委員会 (4月15日)</p>
記念式典等	<p>長野県・松本市との打合せ・開催誘致・組織検討・予算等</p>	<p>国との調整(実行委への参画、関連事業の実施等)</p>		<p>◎協賛企業・団体等募集(2月～6月)</p>	<p>関係大使館・関係国招待調整</p>	<p>招待者リストの確定</p>
記念行事等	<p>H27.10.1 松本市に「山の日記念大会推進室」設置</p>		<p>招待者・出席者の調整</p> <p>宿泊・輸送計画の作成</p>		<p>◎プレイベントでの広報・銀座NAGANO (3月4日)</p>	
広報・情報発信関係		<p>◎室設置、実行委員会立ち上げ関連広報活動(新聞、テレビ報道、ラジオ等)</p>	<p>◎全国大会広報活動(新聞、雑誌、WEBプロモーション)</p>		<p>◎広報ツール作成・ロゴ・ポスター・広報グッズ等</p>	
その他行事等				<p>◎実行委員会ホームページ立ち上げ(1月29日)</p> <p>◎キャッチフレーズの募集(2月22日～3月31日)</p> <p>◎ロゴマークワークショップ(3月12日)</p>		<p>◎大会ロゴマーク決定(4月28日)</p> <p>○上高地開山祭(4月27日)</p>



大会ロゴマークの制作

■制作の趣旨

大会理念等を象徴し、第1回記念全国大会の開催や、山の日制定の趣旨等を、国内外に効果的に発信するためのロゴマークを制作しました。

制作にあたっては、山の未来を担う子供たちとともに作りあげるという基本方針で取り組みました。



■制作及び選考の流れ

区分	大会キャッチフレーズ	大会マーク
基本	「山の未来」を担う子供たちとともに作りあげる	
方向性	全国の子供たちの「山への想い」を表現	地域の子供たちの「山と人との関わり」を具現化
制 作 方 法	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国民こぞって参加することを表現</div> <p>全国の小・中・高校生から公募。未来を担う子供たち誰もが「山」を考え、「山の日」制定を祝う全国大会への参加機会とする</p> <p>【公募方法】 期間：2月22日(月)～3月31日(木) 内容：キャッチフレーズと「山への想い」エピソードの募集</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域の子供とのコラボレーション</div> <p>・開催地域(安曇小・大野川小・奈川小の4～6学年)の児童とともに制作 ・監修は小野圭介デザイナー (長野市育ち、制作実績：JP日本郵政グループ 他)</p> <p>【ワークショップの実施】 日時：3月12日(土)午後 場所：安曇小中学校</p>
選 考 決 定	運営委員会で予備選考し、第2回実行委員会(4月28日)で決定し、合体させて大会ロゴマークとして完成	

■キャッチフレーズの選定結果

全国公募結果

- (1) 期間／平成28年2月22日～3月31日
- (2) 総数／91件(年齢層 6歳～17歳)
- (3) 地域／県内75件(松本市36、長野市13、その他26)
 県外16件(北海道2、東京4、大阪7、茨城1、新潟1、群馬1)



賞区分	作品	応募者
最優秀賞	山と共に ～人と自然がつながる社会へ～	吉原 久瑠実(長野県長野市・中1)
優秀賞	生きよう 山とともに 守ろう山の恵みを	大野 翔太(長野県松本市・中2)
優秀賞	山の力 生きる力	勝沼 直也(大阪府吹田市・高2)
優秀賞	つなげよう 広げよう ぼくたちの山の未来へ	及川 カイラス(長野県松本市・小4)
優秀賞	おいしい水、きれいな空気、山の恵みは無限大	吉岡 凜(東京都豊島区・中3)
優秀賞	考えよう。現在(イマ)の山、未来(コレカラ)の山	笹川 清夏(長野県安曇野市・中3)

(敬称略・住所、学年は応募当時)

■大会マーク制作業者の選定

制作は、市内の広告代理店、印刷・デザイン会社等へ委託することとし、企画提案によるプロポーザルを実施しました。

プロポーザル結果

- (1) 企画提案業者数 11社
- (2) 審査日時 平成28年1月29日(金)
- (3) 審査者 第1回「山の日」記念全国大会運営委員会委員
- (4) 審査方法 企画提案書を元に委員合議により最適候補を選定
- (5) 委託者 エービーシー株式会社

■大会マークの制作

大会マークの図案のデザインは、大会開催地の地元、松本市立安曇、大野川、奈川小学校の児童と取り組みました。3月に図案検討のワークショップを開催、23名の児童が出席し、山に関係のある素材のモチーフを色紙を切って置く、切り絵を作る手法で考案しました。







■監修・決定

子供たちのデザインを極力活かした形で、デザイナー小野圭介さん(ONO BRAND DESIGN代表)がまとめ、4月の第2回実行委員会で最終選定、キャッチフレーズを組み込み、大会ロゴマークとしました。

〈ロゴマーク解説〉

全体の色調は、山々を象徴する緑色を基調とし、上部にはキャッチフレーズの最優秀作品を組み込みました。大会名は小野デザイナーがデザインした象形文字で、「山」は上高地の山嶺をイメージしています。



	鳥：青	オオルリ、ルリビタキなど、幸せの象徴でもある青い鳥
	蝶：紫	コムラサキ、ヒメシジミなどの蝶
	花：ピンク	ミネザクラ、イワカガミなどの高山植物
	木：黄緑	大きく育つ様々な種類の樹木
	川：水色	水が透き通り、光にきらめく梓川
	人：オレンジ	山と触れ合いながら、元気に活動する親子

■使用実績

1 趣旨

第1回「山の日」記念全国大会の大会理念を象徴するロゴマークを効果的に使用し、山の日制定趣旨及び大会の開催について広く周知することを目的とし、使用申請のあった者にロゴマークを提供しました。

2 使用申請件数

賞区分	作品	応募者
公共団体	28	国機関、地方自治体
報道機関	25	テレビ局、新聞社、出版社 他
各種団体	18	一般社団法人、特定非営利活動法人 他
観光	10	観光協会、ホテル 他
製造	9	飲料・食品メーカー、木製品メーカー 他
美術館、博物館	4	美術館、博物館、記念館、資料館
教育、研究	3	大学、図書館
広告	3	広告代理店
その他	10	運輸、郵便、百貨店 他
合計	110	

(2017年1月末時点)

3 主な使用方法

- (1) チラシ、パンフレット、ポスター、その他掲示物等への掲載
- (2) 雑誌、広報誌、会報誌等への掲載
- (3) ホームページへの掲載
- (4) 新聞への掲載
- (5) 製作物品への貼付、印刷
- (6) テレビ放送での使用



吉原 久瑠実
キャッチフレーズ制作
学生

私は、友達に誘われて応募しました。私は、山の日があることを最初知りませんでした。長野県は山に囲まれていて、空気も美しく自然が美しく他の県では感じられない事を感じることができます。長野県に住んでいるからこそ、私はこのキャッチフレーズを考える事ができたと思います。私は、長野県に生まれ育つことができ、とても誇りに思います。

そして今回記念式典に参加させてもらい、とても光栄でした。上高地は行った事がなく、すごくキレイな場所だと感じました。そして、会場でつけたコサージュが統一感を出してすごく圧倒されました。私も、この中の一人なのかと考えるととても嬉しくなりました。

私は、応募しようと誘ってくれた友達、関係者の方々、家族に感謝をし、今後も自然を大切に、人と自然がつながる社会になっていくことを願っています。



小野 圭介
ロゴマーク制作
ONO BRAND DESIGN 代表/デザイナー

大会ロゴマークは、松本市安曇・奈川地区の小学生とのワークショップを経て完成しました。子供達は山と関係あるモチーフを班ごとに切り絵で製作し、そのモチーフの集合体が大会のロゴマークになりました。ワークショップは3時間という限られた時間でしたが、皆が力をあわせ大成功をおさめることができました。子供達の生き生きと力強い造形は、私の予想をはるかに超えており、他にはない宝物のようなデザインになったと思っています。参加してくれた子供達、そしてサポートして頂いた皆様には改めて深く感謝いたします。

大会当日、上高地を中心に松本市のいたるところでロゴマークが用いられました。自分達で作ったロゴマークが実際に広く使われている様子を見て、子供達が誇らしく思ってくれたのであればこれほど嬉しいことはありません。大会への参加を通して子供達が山への理解を深め、自然を慈しむ心を未来に伝えてくれることを願っています。

山と共に
～人と自然がつながる社会へ～

